

「見捨てることのない親」

富山教区 上新川組 本誓寺 若林浄正
平成 27 年 5 月 10 日放送

皆さん、おはようございます。浄土真宗本願寺派の若林と申します。短いお時間ですが、お付き合いの程よろしくお願い致します。

浄土真宗のご本尊は阿弥陀さまという仏さまです。その仏さまは南無阿弥陀仏という声の仏さまとなって私のところに至り届いて、この口からこぼれ出てくださる仏さまです。

ですから、お念仏を称える私の身の上には、もう仏さまが届いてくださっています。たとえ私がどのような人生を送ろうと、どのような生き方をしようと決して見捨てることのない仏さまが既にご一緒です。その阿弥陀さまを、私達の先輩方は「親さま、親さま」と呼び慕ってこられました。それはなぜなのでしょう。

2012年の5月、他人のパソコンを遠隔操作し大阪市のホームページや報道機関などに犯行予告の書き込みを送り付けるという事件がありました。犯行予告の内容は、航空機爆破、大量殺人や無差別殺人、横浜市内の小学校襲撃や子役タレントの殺人予告など少なくとも13件の襲撃や殺人の予告が確認されました。この事件で警視庁・神奈川県警・大阪府警・三重県警が犯行予告を書き込んだとされるパソコンを使っていた男性4人を逮捕します。

しかし、その後、「真犯人」と名乗る別の人物が弁護士の方々に犯行声明のメールを送り、事件への関与を告白したため、警察庁は誤認逮捕であったことを認め、4人の男性は釈放されます。

その後、警察の捜査により一人の男性が威力業務妨害容疑で逮捕され、約1年間身柄を拘束されます。

ところが、この被告も「真犯人にパソコンなどを遠隔操作され、犯人に仕立てあげられた」と訴え、一貫して無罪を主張し、結果的には一度保釈され会見まで行います。

その後、被告の公判中に真犯人であると名乗るメールが報道機関などに送られてくるのですが、結果的には被告自身の自作自演であったことが明らかになります。

確たる証拠を押さえられた被告はパソコン遠隔操作事件への関与を認めます。被告は弁護団に「死のうと思ったが死にきれなかった。先生、申し訳なかった。犯人です」などと話したと言います。弁護士事務所でも事件への関与を説明し終えた後、被告が携帯電話の電源を入れると、母親からメールが届いていたことに気がきます。

母親からのメールには、「あなたが真犯人だったとしても受け入れる」という内容のものでした。その文面を読み、被告が母親に電話をかけ「悪かった、悪かった」と、今まで悪びれることのなかった被告は、繰り返しながら母親からのメールや電話の時だけは涙ぐんだと言います。

このパソコン遠隔操作事件は、被告が単に罪を犯しただけではなく、4人の誤認逮捕を招き、弁護団を裏切り、世間を騙すという、社会に与えた影響はとても大きいものでした。この被告を見捨てることのない母親がいました。罪を犯すということは良くないことです。母親が「受け入れる」と言ったのは、息子の犯した罪を肯定している訳ではありません。

では、なぜ見捨てることができないのか。それは我が子だからです。我が子であるからこそ放っておくことができない、見捨てることができないのです。あなたの苦しみは我が苦しみと思いつけてくれるのは親だけです。だから自分の犯した罪によって他人を傷つけ、自分をも傷つけてしまった被告を母親だけは見捨てることができなかったのです。これは何も罪を犯したからではありません。罪を犯そうが犯すまいが親であれば我が子を見捨てることができないものです。被告にとって、たった一人受け入れる親がいてくれたことが唯一の救いだったのではないのでしょうか。

これは何もこの被告だけに限ったことではないと思います。私達は、一步間違えれば恐ろしいことを考える心をお互いに持っています。自分の都合によって人を裏切り、人を騙し、人を傷つけながら生きているというのが私達です。そのようにしか生きていけないのが私達の本当の姿ではないでしょうか。

それをご覧になられた仏さまが「辛いね、悲しいね。でも、そのあなたを見捨てない仏がここにいるから安心していいよ」と仰られています。私が心配するより先に、阿弥陀さまの安心が既に与えられています。

阿弥陀さまは、私達に罪深いことを告げられるのではありません。罪深いが故に「放っておけない、見捨てることができない」と立ちあがってくださいました。それは、このままでは救われようのない私を見抜いて、握め取って捨てない親となってくださっているからです。その仏さまが南無阿弥陀仏という声の仏となって、今、私のこの身をはたらき場としてくださっています。

南無阿弥陀仏のお念仏は、もう既に阿弥陀さまの見捨てないという安心をいただいた姿そのものです。今日も一日、南無阿弥陀仏のお念仏を聞かせていただきながら、安心の日暮らしを送らせていただきます。